

## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月4日

上場会社名 横浜丸魚株式会社  
 コード番号 8045 URL <https://www.yokohama-maruuo.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芦澤 豊  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務部長 (氏名) 佐藤 彰

TEL 045-459-2921

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	29,487	—	△46	—	200	△4.4	261	△10.9
2021年3月期第3四半期	32,168	△12.3	△38	—	209	△47.4	293	14.1

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △83百万円 (—%) 2021年3月期第3四半期 601百万円 (94.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	41.03	—
2021年3月期第3四半期	41.48	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高については対前年同四半期増減率を記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	21,365	12,039	56.3
2021年3月期	18,011	12,218	67.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 12,024百万円 2021年3月期 12,204百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	—	—	15.00	15.00
2022年3月期	—	—	—		
2022年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	36,500	10.0	△190	—	60	△72.4	120	△58.7
								18.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 対前期増減率については、2021年3月期に収益認識会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	7,261,706 株	2021年3月期	7,261,706 株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年3月期3Q	894,765 株	2021年3月期	894,704 株
------------	-----------	----------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	6,366,971 株	2021年3月期3Q	7,067,060 株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大ペースや、その他の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 第3四半期連結累計期間 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(追加情報) .....	6
(セグメント情報等) .....	7
(収益認識関係) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、第1四半期連結会計期間の期首から、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。これに伴い、当第3四半期連結累計期間と前第3四半期連結累計期間とは、売上高に対する認識が異なるため、以下の経営成績の説明では、売上高については前年同期数値、増減額及び前年同期比（%）を記載しておりません。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済活動の制限が長期間続いておりますが、ワクチン接種の拡大や各種人流抑制策の緩和により、景気は持ち直し傾向にあります。しかし感染力の強いオミクロン株の出現等による経済停滞の懸念を完全に払拭することはできず、今後も先行き不透明な状況は続くと思われまます。

当社グループの中核事業であります水産物卸売事業におきましては、引き続き内食需要は堅調に推移し、外食需要も緩やかな回復基調となりましたが、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式が消費者に定着したことにより、感染拡大以前の程度に戻るには相当の時間を要するものと思われまます。また、海洋環境の変化による漁獲量の減少や、国際的な水産資源の需要拡大による仕入価格の高騰も相まって、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは令和2年度から令和4年度まで3ヵ年の中期経営計画「第5次MMプラン」の2年目にあたり、市場としての役割を果たし、豊かな食生活への責任を全うすべく5つの重要戦略を掲げ、グループ一丸となって目標達成に向け邁進してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は29,487百万円となり、また、生鮮魚・原料品等の魚価高騰の影響を販売価格に転嫁しきれなかったことによる売上総利益率の低下等の要因により、営業損失は46百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ8百万円（前年同期 営業損失38百万円）、経常利益は200百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ9百万円（△4.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は261百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ31百万円（△10.9%）と、増収（前第3四半期連結累計期間に収益認識会計基準等を適用したと仮定した場合の売上高比較）減益となりました。

なお、前第3四半期連結累計期間に収益認識会計基準等を適用したと仮定して算定した売上高比較は以下の通りであります。

単位：百万円

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減	増減率（%）
売上高	25,859	29,487	3,627	14.0

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (水産物卸売事業)

売上高は23,583百万円となり、営業損失は14百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ12百万円（前年同期 営業損失2百万円）の減益となりました。

#### (水産物販売事業)

売上高は5,637百万円となり、営業損失は67百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ43百万円（前年同期 営業損失110百万円）の改善となりました。

#### (不動産等賃貸事業)

売上高は78百万円となり、営業利益は28百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ35百万円（△55.4%）の減益となりました。

#### (運送事業)

売上高は187百万円となり、営業利益は10百万円と前第3四半期連結累計期間に比べ0百万円（4.9%）の増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、21,365百万円と前連結会計年度末に比べ3,353百万円増加しました。この主な要因は、現金及び預金の減少720百万円、受取手形及び売掛金の増加3,203百万円、商品及び製品の増加616百万円、建物及び構築物（純額）及び土地の増加709百万円、時価評価等による投資有価証券の減少441百万円によるものであります。

負債は、9,326百万円と前連結会計年度末に比べ3,532百万円増加しました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の増加3,362百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加350百万円、投資有価証券の時価評価等に伴う繰延税金負債の減少151百万円によるものであります。

純資産は、12,039百万円と前連結会計年度末に比べ179百万円減少しました。この主な要因は、利益剰余金の増加165百万円、その他有価証券評価差額金の減少346百万円によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年11月5日に公表いたしました数値から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,246	2,525
受取手形及び売掛金	3,083	6,286
商品及び製品	1,434	2,050
その他	95	103
貸倒引当金	△569	△539
流動資産合計	7,290	10,426
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,124	1,486
土地	1,626	1,974
リース資産(純額)	81	67
その他(純額)	60	59
有形固定資産合計	2,893	3,587
無形固定資産		
ソフトウェア	172	138
その他	11	11
無形固定資産合計	184	149
投資その他の資産		
投資有価証券	7,573	7,132
長期貸付金	3	3
破産更生債権等	289	296
その他	56	55
貸倒引当金	△279	△284
投資その他の資産合計	7,643	7,202
固定資産合計	10,721	10,939
資産合計	18,011	21,365

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,661	6,024
1年内返済予定の長期借入金	255	605
未払法人税等	34	19
引当金	44	10
その他	262	337
流動負債合計	3,259	6,997
固定負債		
長期借入金	259	217
退職給付に係る負債	497	467
資産除去債務	26	26
繰延税金負債	1,466	1,315
その他	283	302
固定負債合計	2,534	2,329
負債合計	5,793	9,326
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,541	1,541
資本剰余金	402	402
利益剰余金	7,805	7,971
自己株式	△800	△800
株主資本合計	8,950	9,115
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,254	2,908
その他の包括利益累計額合計	3,254	2,908
非支配株主持分	13	14
純資産合計	12,218	12,039
負債純資産合計	18,011	21,365

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	32,168	29,487
売上原価	29,870	27,336
売上総利益	2,298	2,150
販売費及び一般管理費	2,336	2,197
営業損失(△)	△38	△46
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	229	240
雇用調整助成金	27	—
その他	18	7
営業外収益合計	276	249
営業外費用		
支払利息	1	2
休業手当	26	—
その他	0	0
営業外費用合計	28	2
経常利益	209	200
特別利益		
固定資産売却益	0	72
投資有価証券売却益	127	2
特別利益合計	127	74
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	337	274
法人税、住民税及び事業税	45	11
法人税等調整額	△1	1
法人税等合計	43	12
四半期純利益	293	262
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	293	261

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	293	262
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	307	△346
その他の包括利益合計	307	△346
四半期包括利益	601	△83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	600	△84
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来は本人取引として対価の総額で売上高を認識していた受託販売取引につきましては、代理人取引であるとの判断の下、卸売手数料の純額で売上高を認識しております。また、従来は販売費及び一般管理費に計上していた顧客に支払われる対価の一部につきましては、売上高より減額しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。経過的な取扱いでは、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合に累計的影響があれば、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減することになっておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,037百万円、売上原価は5,819百万円、販売費及び一般管理費は217百万円それぞれ減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症(以下、「同感染症」という。)は、国や地方公共団体の各種人流抑制政策やワクチン接種率の上昇に伴い、落ち着きを取り戻しつつありましたが、年が明けてからは感染力の強いオミクロン株の出現により、感染者数が再び増加傾向に転じており、依然同感染症の収束時期は不透明であります。現時点の同感染症に関する入手可能な情報を踏まえて、前連結会計年度末に行った会計上の見積りの前提となる仮定に重要な変更を行っておりません。

なお、現在入手可能な情報に基づいて会計上の見積り及び判断を行っておりますが、見積りに用いた仮定の不確実性は高く、同感染症による経済活動への影響が変化した場合には、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに影響を与える可能性があります。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	水産物 卸売事業	水産物 販売事業	不動産等 賃貸事業	運送事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,584	5,311	90	182	32,168	—	32,168
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,920	27	26	82	2,057	△2,057	—
計	28,504	5,339	117	264	34,226	△2,057	32,168
セグメント利益又は損失(△)	△2	△110	64	10	△38	△0	△38

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円は、棚卸資産の未実現利益△0百万円及びセグメント間取引消去0百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	水産物 卸売事業	水産物 販売事業	不動産等 賃貸事業	運送事業	計		
売上高							
鮮魚	6,488	—	—	—	6,488	—	6,488
冷凍	8,793	—	—	—	8,793	—	8,793
塩干加工他	8,301	—	—	—	8,301	—	8,301
水産物一般	—	5,637	—	—	5,637	—	5,637
運送	—	—	—	187	187	—	187
顧客との契約から生じる収益	23,583	5,637	—	187	29,408	—	29,408
その他の収益	—	—	78	—	78	—	78
外部顧客への売上高	23,583	5,637	78	187	29,487	—	29,487
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,786	61	22	84	1,955	△1,955	—
計	25,370	5,699	101	272	31,442	△1,955	29,487
セグメント利益又は損失(△)	△14	△67	28	10	△42	△4	△46

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4百万円は、棚卸資産の未実現利益△5百万円及びセグメント間取引消去0百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方針に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は、水産物卸売事業で5,982百万円、水産物販売事業で54百万円、それぞれ減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、(セグメント情報等)に記載のとおりであります。